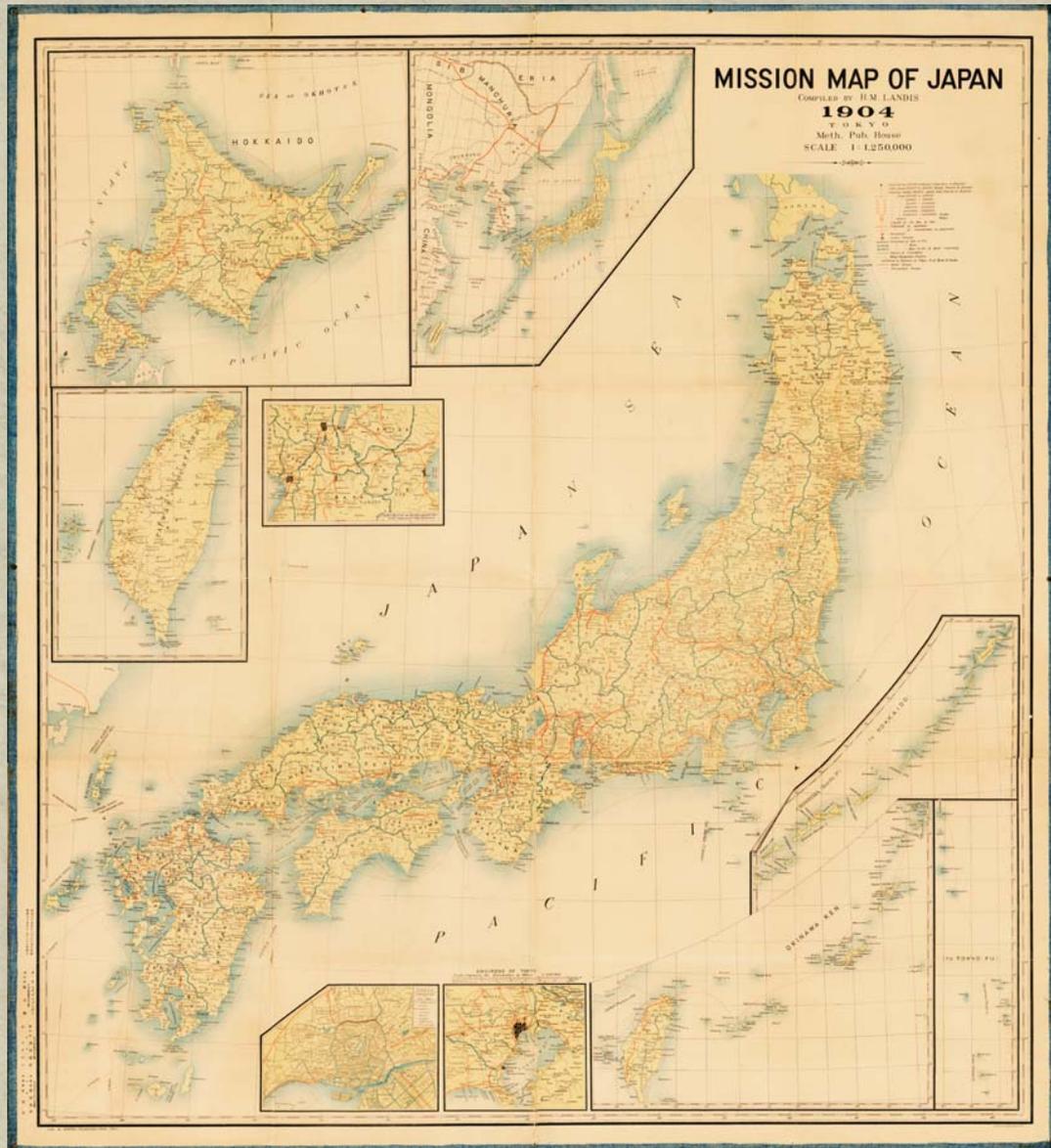


# Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 2010.07



江戸時代の青山キャンパスの「お殿様」 西村慎太郎—2

資料センター所蔵

明治期キリスト教関係図書の調査・整理 萩原 哉—4

受入れ資料 —6

資料センター日誌抄 —7

青山学院史料保存規則・利用案内—8

Mission Map of Japan. Compiled by H.M. Landis, 1904. Methodist Publishing House. 1:1,250,000

ヘンリー・ランディス編、1904(明治37年)年、教文館発行の日本伝道地図。台湾を含めて、全国各地の教会・講義所のある町、ない町が示されている。現物は、縦128.4cm×横116.7cmで折畳まれていたものであるが、壁などに掛けることを想定して周囲は布張りです。ハト目穴がついている。青山学院第3代院長小方仙之助旧蔵。

## 江戸時代の青山キャンパスの「お殿様」

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国文学研究資料館准教授 西村慎太郎

「青山」という地名は、江戸時代の大名・青山家の屋敷があったことに由来する。現在の青山霊園があるところだ。大名・青山家は江戸時代を通じて幕府の重臣として活躍する人物を輩出し、明治へと至っている。

一方、青山キャンパスはもともとどのような土地であったのであろうか。江戸時代以前についての詳しい景観は判然としないものの、青山キャンパスは渋谷村の一角であった。台地上に畑や自然林が広がるのどかな風景が描けよう。

時は江戸時代はじめ。二代将軍・徳川秀忠が鷹狩に出掛けた。鷹狩とは、鷹を使った狩猟のことであり、武士の鍛錬であると同時に、軍事演習としての側面も兼ね備えていた。その時に側近の長谷川久三郎正吉に対して、渋谷村85,000坪余の広大な土地を与えた。青山キャンパスは彼の屋敷地の一角に該当する。

では、秀忠の側近であった長谷川久三郎正吉とはいかなる人物か。江戸時代の大名と旗本の家系について記した『寛政重修諸家譜』という史料を紐解いてみよう。長谷川家の祖は源頼朝に仕えた御家人・下河辺政義であった。下河辺政義は、ムカデ退治で有名な俵藤太こと、藤原秀郷の末裔である。下河辺政義の二男・小川政平から数えて三世孫が大和国長谷川（初瀬川とも。現在の奈良県桜井市）に住んだことから「長谷川」と称したと伝えられている。その後、駿河國小川に居住し、後に田中へ移ったという。現在の静岡県焼津市内だ。

駿河国へと移った長谷川家は、「海道一の弓取り」と称された戦国大名・今川義元に仕え、桶狭間の戦いによって義元が討たれた後、徳川家康に仕えた。元亀3年(1572)、武田信玄と家康が三方ヶ原で決戦するが、その際、討死した長谷川正長は久三郎正吉の父に当たる。

久三郎正吉は、家康の息子・秀忠の側近として活躍し、上野国内（現在の群馬県）で4070石余を領有する幕府の旗本となっていった。旗本の多くが1000石以下であったことを考えると、大身の旗本である。加えて、旗本であるにも関わらず、85,000坪余の土地を拝領している点は異例と言える。

以後、代々長谷川家は徒頭（かちがしら）や先弓頭という幕府主力軍団の隊長を務めた。なお、池波正太郎『鬼平犯科帳』で有名な火付盗賊改・長谷川平蔵は久三郎正吉の兄である宣次の末裔である。

元禄8年(1695)7月、時は五代将軍・綱吉の時代。まだ、赤穂浪士が世間を騒がせる前のこと。長谷川家の屋敷地のうち4万坪と、伊予西条（現在の愛媛県西条市）の大名である松平家の屋敷地2万坪とを交換することとなった。江戸の町々には数多くの武家屋敷が存在したが、それらは将軍から与えられた拝領屋敷である（一部、購入した屋敷などもあり）。当然ながら、どんなに貧乏で生活が困窮していても拝領屋敷を売却することはできないが、幕府に届を提出すれば、当事者同士での屋敷地の交換は認められていた。このような屋敷地の交換を相対替という。こうして、青山キャンパスの地は伊予西条松平家の屋敷となった。

新しく青山キャンパスの地の主となった伊予西条松平家とはどのような家か。伊予西条松平家は紀伊大納言徳川頼宣の二男・頼純に始まる。徳川頼宣は家康の十男であるので、頼純は家康の孫に当たる。頼純は寛永18年(1641)に誕生。最初は紀州藩邸内に居住していたが、「江戸幕府日記」によれば、明暦4年(1658)5月15日に頼純が尾張徳川家の四谷屋敷の中に屋敷を下され、18日には父親の頼宣とともに登城して御礼を述べた記事が



明治初年第一官園（現在の国道246号沿い、青山キャンパス北端）  
（北海道大学附属図書館 所蔵）

あり、この頃独立したものと思われる。寛文10年（1670）に伊予西条3万石の地を与えられた。しかし、頼純は常に江戸にいななければならない、いわゆる「定府」の大名であるため、寛文10年・元禄7年・同11年・同15年・宝永5年（1708）しか西条へ入国していない。したがって、元禄8年（1695）7月相対替以降、ほとんどを青山キャンパスの地で生活していたと言えよう。

では、伊予西条松平家はどのような「お殿様」たちであったのか。特徴ある「お殿様」について触れてみよう。

三代目の頼安（頼渡）は初代・頼純の五男である。文学の奨励や西条の塩田開発を奨めた「お殿様」だ。多喜浜塩田など大規模な塩田開発を行っている。藩を挙げて塩業振興をしているが、その端緒を築いた「お殿様」であった。しかし、元文3年（1738）にわずか33歳で死去してしまう。

五代・頼淳は四代・頼邑が病弱であったため、紀伊徳川家を相続した伯父・徳川宗直（西条松平家二代目の頼致のこと）によって、相続することとなった。宗直の二男であるためだ。享保13年に生まれて、宝暦3年に西条松平家を相続した。明和9年（1772）、嗣子がいなかったため、紀伊徳川宗将（頼淳の長兄）の五男・頼謙を養子とする。しかし、安永4年（1775）紀伊徳川重倫が隠居すると、頼淳は紀伊徳川家を相続することとなった。後に、名君と評判の徳川治貞その人である。

九代・頼学は天保6年（1835）、西条入国をする。「お殿様」の入国は享保14年以来、実に115年ぶりのことであった。

頼学の跡、十代目を継いだのはその五男・頼英。江戸時代の最後の「お殿様」である。頼英は天保14年誕生。幕末の激動の中で、あまり目立った活動は確認できない。長州征伐においても江

戸に留まっていた。大政奉還後、新政府と旧幕府が一触即発の最中、慶応3年（1867）12月26日、旧幕府より内藤新宿宿の警固を命じられているが、これに対し、どのような対応をしたかは不明である。明けて慶応4年、戊辰戦争が進む中、3月4日に家老三宅勘兵衛が京都へ向かい、警固に当たることとなった。さらに翌日には頼英本人が京都へと向かっている。時に新政府軍が駿府・甲府などを陥落させ、江戸総攻撃へと活気づいている時期である。つまり、西条松平家としては積極的に戊辰戦争へ関わることなく、動向を見守っていたものと思われる。明治2年、版籍奉還によって西条知藩事に任じられ、廃藩置県によって免職となった。そして、明治4年（1871）に伊予西条松平家の屋敷は新政府によって召し上げられ、同家屋敷としての歴史を閉じることとなる。

最後に、明治時代の青山キャンパスの姿について触れておこう。政府は4万坪の伊予西条松平家屋敷跡に開拓使第一官園を設けた。官園とは外国より輸入した動植物の飼育や栽培を目的とした施設である。第一官園は伊予西条松平家屋敷跡、第二官園官園は青山北町の山城淀稲葉家屋敷跡5万坪の土地、第三官園は麻布新筈町の下総佐倉堀田家屋敷跡47,500坪余の土地である。第一官園の特色は31,500坪余を果樹園に当てている点であろう。栽培された果樹はリンゴ・スモモ・桃・梨・桜・ブドウなどで、アメリカや清国（現在の中国）から輸入された。官園は同8年3月に農業試験場と改称。近代農業の発展に寄与するが、同14年5月に第二農業試験場とともに廃止されることとなった。

第一農業試験場廃止後、青山キャンパスの土地は入札によって武蔵府中宿脇本陣の田中三四郎に払い下げられた。後に東京英和学校（現在の青山学院）の土地となり、新たな歴史が幕を開け、現在に至っている。

のどかな風景の土地が一変、将軍側近の旗本の広大な屋敷地となり、やがて、元禄時代には伊予西条松平家の屋敷。「定府」大名として伊予西条松平家の「お殿様」たちが生活をし、そして、激動の幕末・維新を経て、近代農業のために設置された果樹園。様々な歴史と生き様の上に、青山キャンパスでの学生生活が送られている。

## 資料センター所蔵

## 明治期キリスト教関係図書 の 調査・整理

武蔵野美術大学非常勤講師  
萩原 哉

## はじめに

青山学院資料センターには、明治時代に刊行されたキリスト教関係の図書、約2,600冊が所蔵されています。国内有数の規模と充実した内容を誇る本コレクションは、キリスト教史研究に欠かせないきわめて重要な資料群であるばかりでなく、本学院の掲げるキリスト教信仰にもとづく「建学の精神」をまさしく象徴するものともいえるでしょう。

このたび筆者は、「青山学院大学資料館(仮称)」設立準備のための学内資料調査の一環として、2009年11月から2010年3月までの約5ヶ月間、本コレクションの調査・整理およびそのデータベース化の作業をおこないました。これは本学文学部の申請により、2009年度の臨時予算として実現したもので、史学科教授・浅井和春先生の監修のもと、筆者への委託契約として実施されたものです。

以下、その作業の概要を紹介します。

## 調査・整理の概要

資料センター所蔵の明治期キリスト教関係図書は、青山キャンパス・ウェスレーホール2階の書庫に配架され、学内外の研究者に対する公開・閲覧の便宜がはかられています。本コレクションについては、これまでも継続的に調査・整理が進められ、Microsoft Excelによって作成された所蔵目録が、PDF形式のファイルとして、資料センターのホームページ上に公開されてきました。

今回の調査・整理では、これまでの成果をふまえ、より詳細なデータを収録した利便性の高いデータベースを構築し、今後の保存・活用に資することを目的として、本コレクションの各資料について、書誌情報の収集、保存状態の確認、内容に関する概要の摘記、デジタル画像の撮影をおこない、それら全てのデータを集約した「青山学院資料センター所蔵 明治期キリスト教関係図書 目録データベース」を作成しました。

総数約2,600冊におよぶ本コレクションは、頭文字をGとする請求番号で登録され、各資料はそ

の主題・内容により55の分野に分類されています。今回の調査・整理で対象としたのは、「G01 宗教一般」、「G012 キリスト教一般」、「G02 キリスト教史」、「G022 伝記」、「G041 講演・論文」、「G042 雑著」、「G043 宗教と国家社会」、「G11 教義神学」、「G13 キリスト伝」、「G14 キリスト論」、「G15 使徒」、「G21 聖書総記」、「G212 聖書歴史」、「G213 聖書地理」、「G214 聖書人物伝」の15分野に分類される656件980冊で、これはコレクション全体の約5分の2に相当します。

今回の調査では、まず各資料について、既存の所蔵目録と照合しながら、請求番号、登録番号、分類、書名(書名ヨミ)、原題、著者・編者・訳者、出版地、発行所、発行人、出版年月日、版、総頁、寸法等の書誌情報を収集しました。

また、本コレクションの資料の多くは、刊行から100年以上の歳月が経過しているため、装丁や紙などに劣化、破損が認められるものも少なくありません。そこで今回の調査では、書誌情報の収集と並行して、各資料の保存の現状についても確認をおこないました。これは本コレクションを末永く保存し、公開・閲覧等に活用していくための基礎情報となるものです。

さらに、より詳細なデータを収録した利便性の高いデータベースの構築を目的とする今回の調査・整理のなかで、とくに重視したのは、各資料の内容に関する概要の摘記です。多彩な内容をもつ本コレクションの各資料について、その概要をまとめるには、キリスト教全般にわたる広汎かつ専門的な知識が求められます。そのためこの摘記については、東京神学大学神学部教授・棚村重行先生のご紹介により、藤巻正悟さん(同大学院神学研究科博士前期課程、本学卒業生)のご協力を得て実施しました。藤巻さんは、各資料の内容に対する理解をふまえ、それぞれの概要を約300字前後の簡潔な文章にまとめられています。

## デジタル画像撮影

以上の作業に加え、今回の調査・整理では、各資料のデジタル画像撮影をおこないました。これ

は各資料の内容と保存の現状を画像情報として記録・公開することで、資料そのものの劣化を防止するとともに、その画像データをさまざまな用途に提供し、本コレクションの活用・公開を促進することを目的とするものです。

各資料の撮影は、原則として、表紙、裏表紙、見返し、序文・緒言、本文第一頁・最終頁、奥付を対象とし、総数10,853点のデジタル画像データを収集しました。これらデジタル画像データは、各資料の請求番号に対応するファイル名を付し、資料ごとのフォルダに分類した上で、TIFF形式ファイルに変換し、必要に応じてレイアウト、明るさ・コントラスト、色調の調整などの画像処理をほどこしました。

## データベースの作成

以上の作業によって収集された膨大なデータは、データベースソフトウェア「File Maker Pro10」により、そのデータベース化をおこないました。データベースの構築にあたっては、本学宗教主任・シュエー土戸ポール先生のご助言のもと、各レコードを入力するレイアウトを作成し、各資料について、書誌情報、保存状態、内容に関する概要、デジタル画像（表紙・見返し・目次・奥付）を収録しました（挿図参照）。

本データベースに収録したデータは、現時点で本コレクション全体の約5分の2にすぎませんが、これが積極的に運用され、将来的にweb上で広く公開されることにより、その保存・管理、利用者に対する検索、リファレンスの便宜は飛躍的に向上するものと思われます。

なお、以上の作業によって作成されたデータベースはFile Maker形式およびPDF形式の、デジタル画像データはTIFF形式のデジタルコンテンツとして資料センターで保存・管理され、今後の活用に限らず、全てのレコード、画像データをプリントアウトし、「青山学院資料センター所蔵 明治期キリスト教関係図書 目録データベース Vol.1」および「青山学院資料センター所蔵 明治期キリスト教関係図書 デジタル画像一覧 Vol.1」として整理したものを資料センターで公開しています。

## 今後の展望

以上、資料センター所蔵の明治期キリスト教関係図書について実施した調査・整理およびそのデータベース化の概要を紹介してきました。

### 明治期基督教関係図書目録

請求番号	G012:15	登録番号	15986
分類	基督教一般		
書名	不朽の道		
書名ヨミ	フキウノミチ		
原題			
著者・编者・訳者	松村介石著		
出版地	東京	発行所	警醒社書店
発行人	福永文之助		
出版年月日_西暦	1908.06.08	和暦	明治41年06月08日
版		総頁	299頁
寸法	18.8×12.9×1.0		
状態	良好。フィルムコーティング。		
概要	日本人キリスト者の手によるキリスト教の概説および弁証書。世界のキリスト教の歴史（イエスの時代から近代まで）を総合的に振り返り、その上で日本独自のキリスト教及び教会のあり方を考察する。日本へのキリスト教伝道に対する熱意と情熱から記された書物であり、独自の日本伝道論が試みられている。具体的に取り上げられる項目としては、「我が日本国民の状態」「明治キリスト教の変遷」「師父時代のキリスト教」「キリスト教の長所と欠点」「進歩的キリスト教」「我が教会の儀式と事業」「伝道と教化の抱負」等。		
画像番号	G012015001-G012015010	撮影日	2009.11.09



見返し



表紙



奥付



目次

レコード管理	作成日付	09.12.17	16:34:32
変更日付	10.04.13	6:00:05	

今後はまず、本コレクションのうち、のこる約1,600冊についても継続して調査・整理をおこない、その全容を収録したデータベースを完成することが必要と思われます。また、本コレクションのみならず、本学院所蔵の美術作品や考古資料など、さまざまな史・資料についても同様のデータベースを構築し、それらを一元的に管理することも必要でしょう。こうした作業を通じて構築された各種データベースを効果的に運用し、所蔵資料の保存と教育的活用を促進するには、本学の歴史的・精神的支柱ともなるべき「青山学院ミュージアム」のような博物館施設の設置が必須であり、本学の学部・大学院の卒業生のひとりとして、その実現を切に希望してやみません。そしてそれは本学院の掲げるキリスト教信仰にもとづく「建学の精神」の、よりいっそうの高揚にもつながると考えられるのです。

## 付記

資料センター所蔵明治期キリスト教関係図書の貴重文献・資料については、本学名誉教授・賀賀健生先生による「青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料」全27回（『Wesley Hall News』74～100号、2002年～2009年）に紹介されています。あわせてご参照ください。

## 2009年度後期受け入れ資料

(学内部署からの資料は除く)

## 寄贈(抜粋)

- 高畑美代子様より、『イザベラ・バード「日本の未踏路」完全補遺』イザベラ・バード著、高畑美代子訳解説、2008年、『イザベラ・バードの北東北』高畑美代子著、2009年
- 小林貞夫様より、本多庸一の書簡(絶筆複製)明治45年
- 横溝達夫様より、大学第二部宗教部「岩の会だより」No.15 2009年、No.16 2010年
- 片瀬一男様より、『明治期の東北地方における女子ミッション教育の社会史』片瀬一男編、2009年、ほか関係資料収録DVD2枚
- 鷹澤昭一様より、「青山学院英語師範科1937年3月卒業アルバム」1冊、1940年代中学部関係写真多数(ほか、長崎廣海旧蔵資料)



「英語師範科1937年卒業アルバム」より渋谷駅山手線



「英語師範科1937年卒業アルバム」より青山キャンパス宣教師館前

- 雨宮剛様より、『日本人と日系人の狭間で』藤田正武著 1997年(コピー資料)、「日本戦没学生の思想—『新版きけわだつみのこえ』の致命的欠陥について」岡田裕之著(『大原社会問題研究所雑誌』No.578No.579抜刷) ほか
- オフィスHANS様より、『技術立国の400年—日本の工学を築いた人々』岡本義喬著、2009年
- 京都西田町教会様より、『日本基督教団京都西田町教会八十年史』2005年
- 滝野川教会様より、『滝野川教会百年史』本編資料編各1部 2009年
- 青山学院高等部同窓会様より、「同窓会報」vol.58 2009年
- いのちのこば社様より、『聖書を読んだサムライたち もうひとつの幕末維新史』守部嘉雅著、いのちのこば社、2010年
- 青山学院校友会エルピス会様より、「青山学院神学部エルピス会会報」10号 2009年
- 栗林一路様より、自著エッセイ「冬至とクリスマス」2009年、「自殺願望者の周辺」2010年
- 聖ヶ丘教会様より、『The sources of the synoptic Gospels』Sang-Bok Kim著、1993年、『日本基督教団萩教会創立120周年記念誌』2007年ほか、日本基督教団教会史など計21冊
- 気賀健生様より、『西日本におけるメソジスト宣教の足跡』啓明学院高等学校共学部第1期生男子編、2008年ほか
- 川崎司様より、『高木壬太郎—その平凡の生涯をた

- どって—』川崎司著、2010年
- 笹森建英様より、『地域学』7巻 弘前学院大学地域総合文化研究所編、2009年
- 石丸新様より、『賛美歌に見られる天皇制用語』石丸新著、2010年
- 千葉本町教会様より、『千葉本町教会八十年史 羔幼稚園と共に』2009年
- 田村忠幸様より、青山学院日曜学校写真(複製)1928年・1929年撮影 各1枚
- 青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会様より、「グリーンハーモニーOBニュース」41号、2010年
- 東洋英和女学院様より、『カナダ婦人宣教師物語』2010年
- 他大学・学校 年史・紀要類

## 購入

- 『偉人の青年時代』小河内縁著、有朋館、明治41年
- 『現時及び栄光にて基督と偲にもつ我等の分』首藤新蔵翻訳・発行、明治28年
- 『偶評今体名家文抄』巻之一、巻之二・三(合冊)、巻之四・五(合冊)全3冊、土居光華編選、内藤傳右衛門、明治10年
- 白瀧幾之助画 帝国美術院展覧会出品作絵葉書11枚、美術工芸会
- 『得山翁小偲録』得山会編・発行、昭和30年
- 『十字架の基督』William George Smith著、基督教書類会社、明治31年
- 『未来之旅行』[井深棍之助著]、基督教書類会社、明治30年
- 『基督教と羅馬帝国』William George Smith著、基督教書類会社、明治35年
- 『日本メソジスト社会事業概要』眞鍋頼一著、基督教出版社、昭和8年
- 『米国男女書生気質』河上翠陵著、秀英舎、明治36年
- 『排邪見正』遠藤信道著、[出版者不明]、[1877]
- 『世界三聖論』中西牛郎著、岡島書店、明治26年
- 『誰にもわかる暦の話 付 最近300余年舊新暦対照表』一戸直蔵著、現代の科学社、大正3年
- 『英語文学』1巻5号(大正7年)、3巻5号(大正8年)福光美規編、緑葉社
- 『増補 天道総論 全』ピン子一著、ソーパル・小林謙一郎合訳、農書館、明治15年
- 『ふる琴 全』ウラルトン女史著、三浦徹著、英国日曜学校教会、明治36年
- 『夏期聖書学校の実際』石川義一著、日本メソジスト教会日曜学校局、昭和13年
- 『現代に於ける基督教本質探究の三段階』亀徳正臣述、日本メソジスト函館教会男子共励会編・発行、昭和8年
- 『日曜学校教授提要 全』Herbert Moninger著、四谷基督教会、明治43年
- 『基督教要論』米国聖教書類会社、明治19年
- 『主祷輯釋』露國主教斐沃芳撰、堀江復訳、正教会編輯局、明治31年
- 『信者の友』木村英吉著、正教会、明治26年
- 『羅馬教会論』露國大主教ニカノル著、吉田葩韋勒(卯太郎)訳、正教会編輯局、明治34年

2009 年度後期

日誌 (抄録)



10月

閲覧 (青山)

- ・ 教員、『日本メソジスト時報』等 (3回)。
- ・ 元職員、校史調査のため学院資料 (3回)。
- ・ 職員、大学50年史調査のため学院資料。
- ・ 牧師 (校友)、メソジスト教会歴史資料。
- ・ 他大学学部生、カナダメソジスト教会年会記録ほか (2回)。
- ・ 大学図書館職員、レファレンス対応のため学院資料 (2回)。
- ・ 学外者、自伝執筆のため学院資料。

閲覧 (相模原)

- ・ 教員、大学50年史調査のため学院資料 (2回)。
- ・ 教員、著述・論文作成のため他校史資料。
- ・ 大学名誉教授、校友伝記執筆関連調査。
- ・ 大学図書館職員、レファレンス対応のため図書資料。
- ・ 他大学教員 (校友)、論文執筆のため学院資料。

レファレンス… 8件 (昭和30年代オリンピック馬術競技練習中に亡くなった本学学生のために柵錦関 (当時) が揮毫した記念碑があるのか、ほか)。

資料提供

- ・ 東京大学附属図書館特別展示「日本の天文学の歩み」に、一戸直蔵肖像写真。
- ・ 横浜指路教会展示「ヘボンと来日宣教師展」に、明治期基督教関係貴重図書計9点 (現物貸出)、学院創立者肖像写真ほか。

来室 (青山) … 大学図書館職員、蔵書点検のため。

来室 (相模原) … 博物館設置を目指し、大学教員と打合せ。資料センター所蔵明治期基督教関係図書を撮影しデータベースを作成することとした。

「歴史建造物を学ぶ会」一行35人に、青山キャンパスの歴史的建造物につき説明。

11月

閲覧 (青山)

- ・ 元職員、校史調査のため学院資料 (2回)。
- ・ 教員、『The Japan Christian yearbook』。
- ・ 他大学学部生、カナダメソジスト教会年会記録ほか。
- ・ 大学図書館職員、レファレンス対応のためマイクロ資料。
- ・ 校友、『護教』ほか。
- ・ 他大学大学院生、学院資料ほか。
- ・ 学外者、先祖の個人写真。

閲覧 (相模原)

- ・ 教員、学院関係者伝記資料。
- ・ 元教員、校友伝記執筆関連調査 (3回)。
- ・ 他大学教員、母の日関係資料。

レファレンス… 5件 (第一次世界大戦後に米国赤十字の保護のもとシベリヤにいたロシアの避難民たちを勝田汽船の船で輸送したという事実の証拠になるようなもの。また、その時のカヤハラ船長という人物について、ほか)。

資料提供

- ・ 沼津市明治史料館特別展示「沼津兵学校のすべて」に、和田正幾肖像写真。
- ・ 全国大学史資料協議会展示「日本の大学-その設立と社会」に、海岸女学校再建校舎写真。

来室 (青山) … 博物館設置準備のためのスタッフ、明治期基督教関係図書撮影開始 (～2010年3月)。

来室 (相模原) … 校友、中学部教員遺族寄贈写真確認。

資料センター運営委員会開催。

東京神学大学図書館へ「よろこばしきおとづれ」のデジタル資料複製作成と閲覧公開許可を願出。

12月

閲覧 (青山)

- ・ 教員、『The Japan Christian yearbook』等 (4回)。
- ・ 元職員、校史調査のため学院資料。
- ・ 本学教員、論文作成のため『護教』ほか。
- ・ 大学図書館職員、レファレンス対応のため『基督教世界』。
- ・ 職員、業務上調査のため学院資料。
- ・ 他大学教員、母の日関連調査のため『護教』ほか (2回)。
- ・ 本学学部生、論文作成のため図書資料。

閲覧 (相模原)

- ・ 大学名誉教授、校友伝記執筆関連調査。
- ・ 他大学院生、本多庸一関係資料ほか。

資料提供

・ いのちのことは社『聖書を読んだサムライたち』に切支丹禁制高札写真。

・ 『イザベラ・バードの北東北』高畑美代子著に山鹿旗之進述資料。

全国大学史資料協議会東日本部会研究会参加。

大学図書館本館「大学開学60周年記念展示」撤収。

2009年資料寄贈者にクリスマスカード送付。

「Aoyama Gakuin Archives Letter」創刊。

1月

閲覧 (青山)

- ・ 教員、『The Japan Christian yearbook』等 (3回)。
- ・ 元職員、校史調査のため学院資料 (3回)。
- ・ 元教員、明治期聖書。
- ・ 大学図書館職員、レファレンス対応のため『六合雑誌』。
- ・ 他大学教員 (校友)、論文執筆のため学院資料。

レファレンス… 6件 (ヘレンケラーが青山学院に来校した記録はあるか、ほか)。

来室 (相模原) … 大学万代記念図書館員、蔵書点検。

2月

閲覧 (青山)

- ・ 教員、大学開学関係資料。
- ・ セカンダリー教員、女学部校舎図面等 (4回)。
- ・ 大学名誉教授、学院関係者伝記資料。
- ・ 元職員、校史調査のため学院資料。
- ・ 教員、『The Japan Christian yearbook』 (3回)。
- ・ 校友、緑岡幼稚園関係資料。

閲覧 (相模原)

- ・ 教員、大学50年史関係調査のため学院資料。
- ・ 大学名誉教授、校友伝記執筆関連調査 (2回)。
- ・ 職員、業務上調査のため学院資料。
- ・ 本学学部生、取材のため『青山学報』。
- ・ 教員、論文作成のため『護教』ほか。
- ・ 他大学教員、戦前『青山学報』 (2回)。

レファレンス… 5件 (昭和3年以前に菊地石膏模型製作所から青山学院が何かを購入していないか。現在駐車場になっている表参道交差点付近の過去の店舗写真がないか、など)。

資料提供… 渋谷駅前電車モニュメントでの平和祈念パネル展 (渋谷区・世界連邦東京都渋谷区連合会共催) に、青山学院の戦災跡、八幡通周辺の焼跡写真。

来室 (青山)

- ・ 大学新聞編集委員、ラテン語聖書の取材。
- ・ 総合文化政策学部新入生歓迎プログラム担当教員より、資料提供等協力依頼。

来室 (相模原)

- ・ 本多庸一ご子孫、本多庸一資料確認。
- ・ 大学新聞編集委員、資料センター紹介記事の取材。
- ・ 校友、中学部教員遺族寄贈写真の内容特定のため。

大学史資料協議会展示業務に協力。

3月

閲覧 (青山)

- ・ 教員、大学50年史関係調査のため学院資料 (2回)。
- ・ 大学名誉教授、明治期聖書。
- ・ 元職員、校史調査のため学院資料 (3回)。
- ・ 職員、業務上調査のため学院資料 (2回)。
- ・ 校友、同窓会のため学院関係資料。
- ・ 教員、『The Japan Christian yearbook』 (4回)。

閲覧 (相模原)

- ・ 大学名誉教授、校友伝記執筆関連調査。
- ・ 職員、業務上調査のため学院資料。

レファレンス… 17件 (『Japan Woman's Conference 1926』に、高谷とくの活動のことが書いていないか。カナダメソジスト教会の日本伝道に関する1880～1930年発行の機関誌所蔵の有無、ほか)。

資料提供

・ 総合文化政策学部新入生歓迎会のため大正初期折畳み式リードオルガンを貸出し (ガウチャー・メモリアル・ホールにて演奏)。

来室 (青山) … 総合文化政策学部教員、新入生歓迎会の打合せ (大学開校入学式映像、写真など)。

来室 (相模原) … 校友、中学部教員遺族寄贈写真の内容特定のため。大学50年史編集協力 (2009年9月～2010年3月) … 校正、写真選別・提供 (約170枚)、事項調査。

## 青山学院史料保存規則 2008(平成20)年2月28日 理事会承認

(趣旨)

**第1条** この規則は、青山学院資料センター規則第7条及び学校法人青山学院文書管理規則(以下「文書管理規則」という。)第27条第2項の規定に基づき、青山学院史に係る重要史料又はこれに準ずると認められるもの(以下「学院史料」という。)の散逸を防ぎ、青山学院資料センター(以下「資料センター」という。)において一元的に収集及び保存するため、学院史料の定義並びに収集及び保存の方法について定めるものとする。

(学院史料)

**第2条** 学院史料は、以下の各号に規定するものとする。

- (1) 青山学院及びその前身学校に係る年史、沿革史、略史並びにその他青山学院の歴史に係る資料
- (2) 学校法人青山学院規則集及びその他の規程類
- (3) 学校法人青山学院(以下「本法人」という。)又は本法人が設置する学校(以下「設置学校」という。)が発行の広報誌紙及びその他の出版刊行物
- (4) 本法人又は設置学校における記念事業、周年事業等の出版刊行物及び記念品等
- (5) 本法人の役員名簿並びに本法人又は設置学校の教職員名簿、電話番号簿及びその他の名簿、目録
- (6) 設置学校の学校案内及び入学試験要項等
- (7) 設置学校の履修要項、シラバス、時間割及びその他修学に係る資料
- (8) 設置学校における自己点検・自己評価、認証評価又は第三者評価等に係る報告書、年報及びその他教育研究活動に係る報告書
- (9) 本法人又は設置学校における調査統計報告書及びその他行政資料
- (10) 本法人又は設置学校における募金趣意書及び学院債趣意書
- (11) 学生諸団体、校友会、同窓会等本法人又は設置学校における関係団体の出版刊行物
- (12) 本法人、設置学校又は関係団体以外の出版刊行物で、本法人又は設置学校に係る記事等が掲載されているもの
- (13) 本法人又は設置学校に係る写真、映像資料及び音声資料
- (14) 本法人又は設置学校に係る各種図面及び物品等
- (15) その他資料センターが学院史料として適当であると認め、指定するもの

2 前項各号に規定するものに加えて、文書管理規則第2条に規定する文書で、同規則第27条の規定により資料センターに移管されたものは、学院史料とする。

3 各種電子媒体に記録されたもので前2項に該当するものは、必要に応じて、学院史料として取り扱うことができる。

(有効史料と永年史料)

**第3条** 学院史料は、以下のとおり有効史料及び永年史料に区分する。

- (1) 有効史料とは、前条の規定に基づき、資料センターにおいて重要な史料であると判断し、収集したものをいう。
- (2) 永年史料とは、有効史料のうち、永久保存を図るべき貴重な史料をいう。

2 永年史料は、収集した日が属する年度の翌年度の4月1日から起算して10年を経過した有効史料について判定を行い、永久保存が妥当であると認められたものとする。ただし、判断が難しいものについては、最大で更に3年間、判定を留保することができる。

3 前項の規定にかかわらず、特に重要であると認められる有効史料については、適宜永年史料とすることができる。

4 前2項の規定にかかわらず、前条第2項の規定により資料センターに移管された文書のうち、学校法人青山学院文書保存規則(以下「文書保存規則」という。)第4条第1項第1号に規定する第1種の永久保存文書に該当するものについては、直ちに永年史料とする。

(有効史料の収集)

**第4条** 有効史料の収集は、資料センターがその収集計画に基づいて行うもの又は本法人の内外からの寄贈によるものとする。

2 前項の規定に加えて、本法人又は設置学校の部、室(部に属する室を除く)、センター及びこれらに準ずる事務組織(以下「部署」という。)の長は、第2条第1項に該当するものを刊行若しくは作成したとき又は当該部署の所管業務に係り第2条第1項に該当するものが刊行若しくは作成されたときは、当該の刊行物又は作成物2部を資料センターに納めなければならない。

3 前2項の規定に加えて、部署の長は、文書管理規則第26条第5項の規定により保存文書の廃棄を行うときは、文書保存規則第8条第2項の規定に基づいて廃棄予定文書のリストを資料センターに提出し、有効資料に該当すると認められたものを、文書管理規則第27条の規定に基づいて資料センターに移管しなければならない。ただし、特段の事情があるものについては、部署の長と資料センター事務長の協議を経て、移管の対象から除外することができる。

(有効史料の保存)

**第5条** 資料センターは、有効資料について、劣化及び紛失等を防止し、その保全に細心の注意を払い、適切に保存する体制を整えなければならない。

(有効史料の廃棄)

**第6条** 有効史料のうち、第3条第2項に規定する判定において永年史料とされなかったものは、文書保存規則第8条の規定を準用して廃棄する。

2 永年史料を廃棄することはできない。ただし、永年史料のうち、永久保存の必要性は認められないと特に評価されたものについては、青山学院資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)の議を経て、廃棄することができる。

(改廃手続)

**第7条** この規則の改廃は、運営委員会、常務理事会、常務委員会及び理事会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則

この規則は、2008(平成20)年2月29日から施行する。

## 青山学院資料センター利用案内

資料センターは、青山キャンパス再開発計画に伴い、2005年11月17日に下記2箇所へ臨時移転いたしました。移転期間中、展示はお休みないたします。資料閲覧希望の場合は、余裕を持って連絡してください。

★資料の閲覧曜日、時間

特定の研究目的を持って閲覧を希望される方々に青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開。

・相模原キャンパス N棟N403

月曜日～金曜日 9時30分～17時

・青山キャンパス ウェスレー・ホール2F(完全予約制)

火曜日 9時30分～17時

土曜日 9時30分～13時

(2キャンパスとも、昼休み11時30分～12時30分)

★休室日

日曜日・国民の祝日・クリスマス・年末年始・その他青山学院が定める休日

★夏期休暇中(8月2日～9月11日)について

8月8日～15日は一斉休業、毎土・日・月曜日は2キャンパスとも休業

相模原キャンパス 水・木・金 9時30分～16時

青山キャンパス 火のみ 9時30分～16時

(2キャンパスとも、昼休み11時30分～12時30分)

★お問い合わせ・連絡先

TEL: 03-3409-6742 FAX: 03-3409-8134 (2キャンパス共通)

(相模原) 〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1

(青山) 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

URL <http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/>

## 資料センター運営委員

(任期2009年4月1日～2011年3月31日)

院長(職務上)	山北 宣久 (2010年7月1日～)
常務理事1名(職務上)	半田 正夫
学院宗教部長(職務上)	嶋田 順好
大学図書館長(職務上)	山本 吉宣
大学 教員1名	清水 信行

女子短期大学 教員1名	八耳 俊文*
高中部(高) 教員1名	佐藤 隆一
高中部(中) 教員1名	小田井 孝*
初等部 教員1名	佐々木 淳*
幼稚園 教員1名	川島 祥子*
総局長(職務上)	岸 實
資料センター事務長(職務上)	傳農 和子

(★は2010年4月1日～)

## Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 2号

2010年7月20日  
青山学院資料センター編・発行

